

第4次松山市下水道整備基本構想

第1章

松山市の下水道の歩み

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

松山市の下水道の歩み

1. 下水道事業の沿革

本市の下水道事業は、大正初期に事業着手し、昭和 33 年には、松山城を中心とする旧市街地（中央処理区の一部）を対象に処理場を有する公共下水道事業としての事業認可^{*}を受け、昭和 37 年には、四国で初めて処理場の運転を開始しました。

当初の下水排除方式は、当時、全国的にも多くの都市が採用していた合流式下水道^{*}でしたが、昭和 47 年からは、排除方式を分流式下水道^{*}に変更するとともに、市街地全体を地形や水系などから、中央、西部、北部の 3 処理区に分割した基本計画を策定し、計画的に下水道整備を進めることにしました。

その後、昭和 59 年度に西部処理区、平成 7 年度に北部処理区に事業着手し、さらに、平成 17 年 1 月には、市町村合併による北条処理区の追加もあり、現在では、中央、西部、北部、北条の 4 処理区で事業を展開しています。

2. 下水道整備の状況

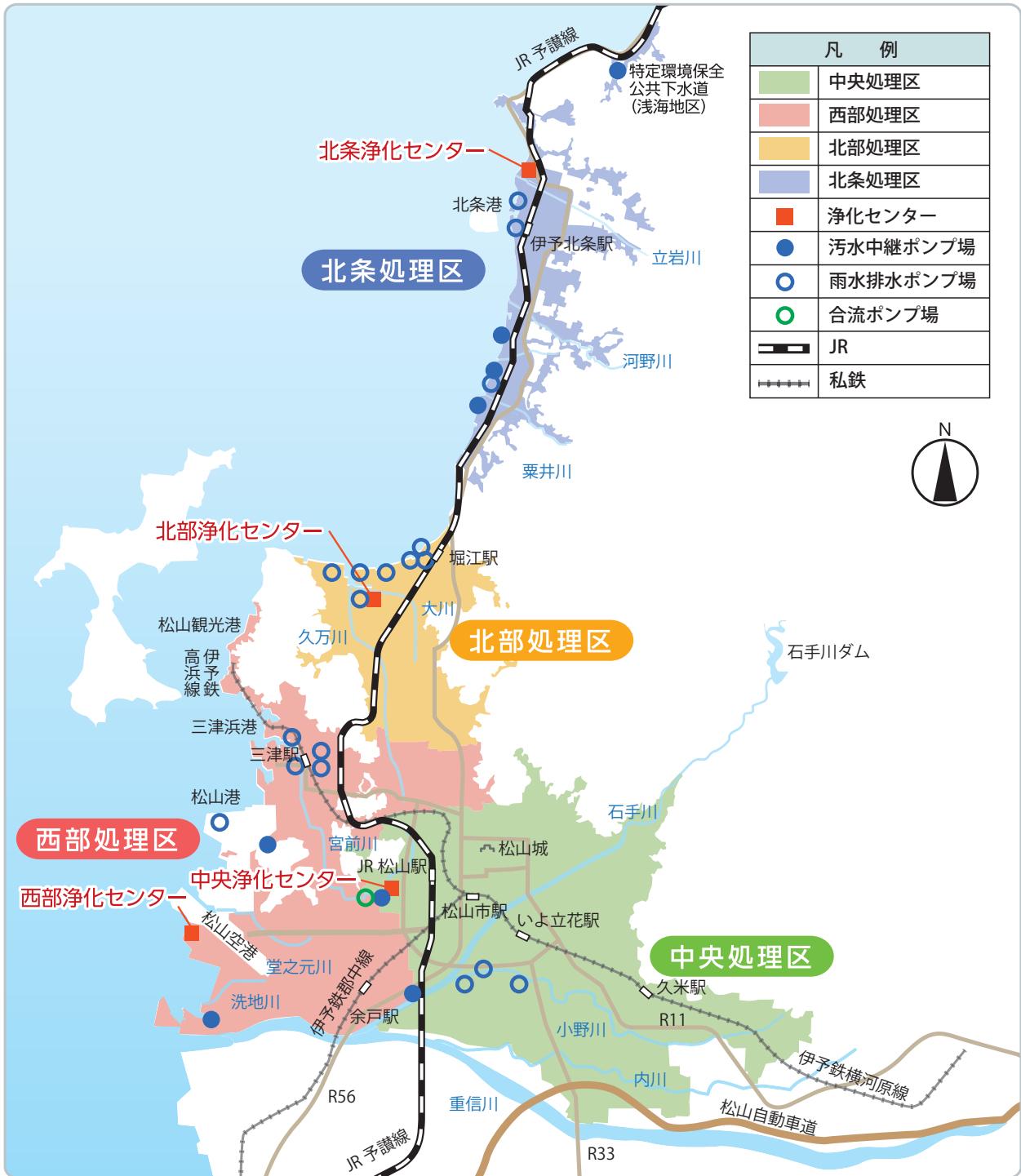
本市では、市街地及びその周辺地区を中心に整備を進めてきた結果、平成 27 年度末で、整備面積 4,947.5 ha、管渠延長約 1,502km、浄化センター（処理場）4 箇所、ポンプ場 27 箇所（汚水中継ポンプ場 9 箇所、合流ポンプ場 1 箇所、雨水排水ポンプ場 17 箇所）を整備し、現在では 1 日平均約 12 万 m³ の下水を処理しています。

しかしながら、下水道処理人口普及率^{*}は 61.3%となっており、全国平均の 77.8%と比べ 16.5 ポイント低いいため、より一層の整備が求められています。

松山市の下水道整備状況（平成 27 年度末）

処理区	中央	西部	北部	北条	計	
全体計画面積（ha）	4,102.7	2,398.3	1,196.8	1,026.0	8,723.8	
事業計画面積（ha）	3,112.6	1,908.2	398.1	733.9	6,152.8	
平成 27 年度末	処理面積（ha）	2,730.8	1,375.6	283.2	557.9	4,947.5
	処理人口（人）	200,056	86,886	10,002	19,382	316,326
	下水道処理人口普及率（%）	316,326÷516,076（行政人口）				61.3
	管渠施工延長（m）	813,920	459,918	86,921	141,084	1,501,843
	処理水量 （晴天日日平均 m ³ /日）	95,904	21,571	2,118	5,260	124,853
	処理水量 （晴天日日最大 m ³ /日）	121,136	26,267	3,022	6,824	157,249
	処理能力（m ³ /日）	168,160	43,250	8,000	13,000	232,410

松山市下水道計画概略図



注：ポンプ場は整備済及び建設中のものを記載しています。



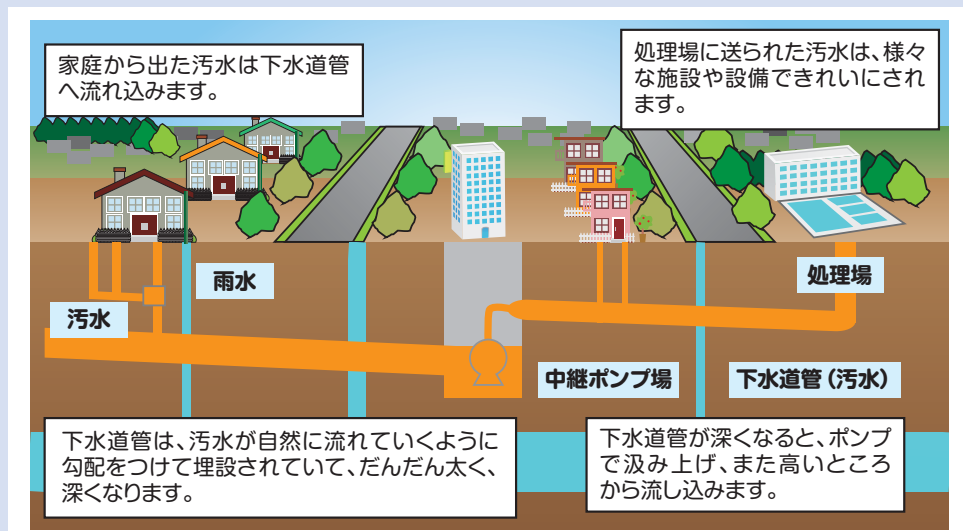
知ってビックリ!?

松山市の下水道

●使った水はどうやって流れていくの？

台所で、お風呂で、トイレで、私たちは毎日何らかの形で水を使用しています。家庭や工場で使用した汚れた水（汚水）は、下水道管の勾配（傾き）を利用して処理場まで運ばれています。

電気や熱といったエネルギーをあまり必要とせず、水が自然に流れて処理場に行くため、省エネでCO₂などを排出しない環境に優しいシステムと言われています。



●これまでどのくらいの長さの管渠が整備されたの？

昭和33年から事業を行っている本市の下水道管の総延長（汚水管、雨水管、合流管）は約1,500km（平成27年度末）となっています。

これは、直線距離にすると松山市から北海道や台湾に届く長さとなっています。



松山市を中心とした半径1,500kmの円

●1日にどれだけの汚水が処理されるの？

中央浄化センター 北部浄化センター 1日あたり約125,000 m³



西部浄化センター 北条浄化センター



「坊っちゃんスタジアム」
約2杯分に相当

本市にある4箇所の処理場では、1日に約125,000m³（平成27年度末）の汚水を処理しています。

これは、「坊っちゃんスタジアム」の約2杯分に相当します。